

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称	
86	行政バス運行経費	会計	01	一般会計		
51	市内交通機関の利便性を高める	款	02	総務費		
		項	01	総務管理費		
		目	06	企画費		
担当部課名	大山田支所 総務振興課		細目	105	バス等対策事業経費	
作成者氏名	池口 法行	連絡先	47-1150	細々目	01	行政バス運行経費

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	公共交通機関の空白地域における市民(園児・学生・高齢者等交通弱者)	公共交通機関の空白地域の生活交通手段の確保と高齢者等の交通弱者移動手段の確保をする。
本年度事業内容	運行路線 坂下、大沢、虹ヶ丘線の3路線 運行回数 各路線とも1日3往復 収支率 7%	
開始年度	平成 15 年度	終了年度 平成 年度
根拠法令・要綱等 伊賀市行政サービス巡回車の運行及び管理に関する条例		

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員			
正規職員 (人)	0.6	0.6	0.6
人件費合計(A)	4,320	4,320	4,320
②支出内訳(千円)			
事業費(B)	4,224	5,983	5,983
委託料	4,188	5,983	5,983
その他	36	0	0
合計(A+B)	8,544	10,303	10,303
③財源内訳(千円)			
特定財源			
国庫支出金	1,158		
地方債			
受益者負担	297	240	360
その他特財			
一般財源	7,089	10,063	9,943
上記①～③に関する特記事項			

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
路線数	路線	3	3	3			
運行数	往復	3	3	3			
利用者数	人	3254	3500	3700			
投入台数	台	1	1	1			
収支率	%	7	15	20			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
年間利用者数	マイカー使用者の潜在的な利用可能者は数倍と考えられる	人	3254 目標 ()	3500	3700
収支率	事業維持のために収支率の向上が必要 料金値上げにより向上させるのは、利用者数の減少にもなりかねない マイカーからの乗換え等、新たな乗客確保の方策が必要	%	7 目標 ()	15	20

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

<ul style="list-style-type: none"> 平成16年4月 坂下線、大沢線、同年10月虹ヶ丘線運行開始する。平成18年4月虹ヶ丘線路線を変更。 1台のバスで、3路線を巡回しているため、適時運行が出来ない。投入バスを増やせば利用者数が増えるが、収支率が下がる。 1運行の距離を伸ばせば、乗車時間が長くなり(遠回りになり)、利便性が損なわれるので現行コースが最良と考えられる。
--

評価	必要性	4	運行スケジュールを工夫し、1台の車両を最大限に活用している。 通学や生活交通手段として必要不可欠である。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		